

The 46th Annual Meeting of Japanese Society of Transactional Analysis

日本交流分析学会 第46回学術大会

プログラム・抄録集

会期 2021年6月12日(土)・13日(日)

会場 東邦大学 大森キャンパス
オンラインWEB会場

〒143-8540 東京都大田区大森西5-21-16

大会長

端詰 勝敬

東邦大学医学部心身医学講座

事務局長

中村 祐三

東邦大学医学部心身医学講座

テーマ

交流分析と多職種連携



The 46th Annual Meeting of Japanese Society of Transactional Analysis

日本交流分析学会 第46回学術大会

プログラム・抄録集

テーマ 交流分析と多職種連携

会期 2021年6月12日(土)・13日(日)

会場 東邦大学 大森キャンパス
オンラインWEB会場

〒143-8540 東京都大田区大森西5-21-16

大会長 端詰 勝敬 東邦大学医学部心身医学講座

事務局長 中村 祐三 東邦大学医学部心身医学講座

日本交流分析学会第46回学術大会事務局

〒143-8541 東京都大田区大森西6-11-1

東邦大学医学部心身医学講座 内

TEL.03-3762-4151

E-mail: 46jsta@ml.toho-u.jp

大会長挨拶

日本交流分析学会 第46回学術大会
大会長 端詰 勝敬
東邦大学医学部心身医学講座

この度、日本交流分析学会 第46回学術大会を2021年6月12日(土)～13日(日)の2日間開催させていただくことになりました。本大会を開催するにあたり、本学会の趣旨をご説明申し上げます。もともとは第45回大会として2020年6月に開催する予定でしたが、COVID-19の世界的な流行のため、1年延期をさせていただきました。この1年間は本当にいろいろな出来事がございましたが、何とか開催に漕ぎつけることができました。励ましのお言葉、開催に向けてのアドバイス等多くのサポートをいただきました。感謝いたします。

さて、交流分析は、医学領域、心理領域のみならず、教育領域、産業領域にも活用されています。私どもは医療療育ではありますが、日々の心療内科の診療に交流分析を活用しています。原則、初診患者の全例にエゴグラムを施行して患者の病態評価に生かしています。しかし、自信をもって診療に交流分析を用いているとは言えないと常々考えていました。交流分析は、奥が深いだけに患者への心理的介入方法も様々で、われわれが交流分析と言っているのは交流分析の表面的な部分に過ぎないと思っております。また、実際の外来診療は忙しく、時間をとって治療をおこなうことはできません。医療現場では、「チーム医療」というワードがさかんに叫ばれていますが、交流分析も多くの職種が意見交換をし、連携していく必要があるのではないかと考え、このテーマにさせていただきました。

現在、大会の方法として、バーチャル会場を基本にした、web開催とさせていただきました。特別講演・教育講演・シンポジウムはライブ配信し、講習会および一般演題はオンデマンド配信となります。なにぶん慣れない作業も多く、皆様にはご心配やご迷惑をおかけするかもしれませんが、東邦大学心療内科のスタッフで精一杯「暖かい大会」になるよう努力する所存でございます。

実り多い大会になりますよう、積極的なご参加をお願いいたします。

参加者へのご案内

■参加登録

◆オンライン登録

本会は WEB 開催となり、参加には事前に参加登録が必要です。

Web 会場へのログインには登録されたメールアドレスと設定いただいたパスワードでログインできます。

■登録受付期間

2021 年 2 月 17 日（水）～5 月 31 日（月）

◆大会参加費

会 員	8,000 円
非会員	10,000 円
学 生	2,000 円

◆講習会参加費

会 員	6,000 円
非会員	8,000 円
学 生	5,000 円

※学生証の提示が必要です。参加登録画面内で学生証データのアップロードをお願いいたします。

■参加費等の振り込みについて

参加登録後、自動送信される受付メールを確認の上、登録日より 2 週間以内に振り込みをお願いします。
振込手数料はご負担ください。

■参加証について

学会参加証・学会参加・講習会参加領収書、また講習会の受講修了証につきましては学会終了後、
郵送でお送りいたします。

■取得単位に関して

- ・日本心身医学会専門医 ⇒ 学術大会参加（3 ポイント）^{注1)}
- ・日本心身医学会心身医療専門医 ⇒ 学術大会参加（3 ポイント）^{注1)}
- ・心身医学会認定医療心理士 ⇒ 学術大会参加 3 ポイント、演者は 2 ポイント加算^{注2)}
- ・臨床心理士 ⇒ 学術大会参加 2 ポイント、演者は 2 ポイント加算、講習会参加 2 ポイント見込み^{注2)}

注1) 講習会のみ参加の場合はポイントを取得出来ません。

注2) 学術大会と講習会両方参加の場合はそれぞれでポイントが取得できます。

■お問合先

日本交流分析学会 第46回学術大会 事務局
〒143-8541 東京都大田区大森西6-11-1
東邦大学医学部心身医学講座 内
TEL：03-3762-4151
E-mail：46jsta@ml.toho-u.jp

大会日程表

6月12日 土		6月13日 日
ライブ配信 (後日、オンデマンド配信)		講習会 オンデマンド配信
9:00		
9:20~9:30	開会の辞	講習会
9:30~10:30	教育講演 司法と交流分析～法を逸脱した人との面接 演者：門本 泉 座長：室城 隆之	【オンデマンド配信】
10:00		6月12日から 6月30日まで 自由閲覧可能
10:40~11:30	会長講演 心療内科における交流分析 演者：端詰 勝敬 座長：中村 延江	
11:00		ベーシック
11:40~12:40	ランチョンセミナー TA・ゲーム分析入門 ～うつ病患者の特性を踏まえて～ 演者：芦原 睦 座長：松野 俊夫	ここから始まる 交流分析 ～やり取りで紡ぐ 人生の物語～ 講師：花岡 啓子 細谷 紀江
12:00		
13:00	13:00~14:00 評議員会・総会	アドバンスト
14:00	14:10~16:20 シンポジウム 多職種連携の次のステップ ～交流分析の活用に向けて～ 演者：柴山 修 柊 未聖 米沢 宏 内田 道夫 鈴木 佳子 座長：島田 涼子 江花 昭一	ポジティブな 交流分析に向けて ～バーンの脚本分析から コ・クリエイティブ交流 分析まで～ 講師：江花 昭一
15:00		
16:00	16:30~17:30 特別講演 わが国における産業保健の現状と課題 ～多職種連携を含めて～ 演者：黒木 宣夫 座長：端詰 勝敬	
17:00		

プログラム

6月12日(土)

【ライブ配信】 後日、オンデマンド配信

9:20～ **開会の辞** 端詰 勝敬(東邦大学 医学部 心身医学講座)

9:30～10:30 **教育講演**

座長：室城 隆之(江戸川大学)

司法と交流分析～法を逸脱した人との面接

門本 泉(さいたま少年鑑別所)

10:40～11:30 **会長講演**

座長：中村 延江(中央心理研究所)

心療内科における交流分析

端詰 勝敬(東邦大学 医学部 心身医学講座)

11:40～12:40 **ランチョンセミナー**

座長：松野 俊夫(日本大学)

TA・ゲーム分析入門 ～うつ病患者の特性を踏まえて

芦原 睦(芦原内科・心療内科／中部心身医療研究所)

13:00～14:00 **評議員会・総会**

座長：島田 涼子（人間総合科学大学、東邦大学 医学部 心身医学講座）
江花 昭一（神奈川大学保健管理センター）

[多職種連携の次のステップ～交流分析の活用に向けて～]

S-1 [心療内科の立場から]
忙しい外来診療で交流分析をどう活用しているか？
柴山 修
横浜労災病院 心療内科

S-2 [心療内科の立場から]
多職種連携治療における交流分析の活用に向けて
～神経性やせ症の一例を通して～
柊 未聖
東邦大学医療センター大森病院 心療内科

S-3 [精神科の立場から]
交流分析の哲学から見たオープンダイアログ
米沢 宏
ジャパン EAP システムズ

S-4 [看護の立場から]
病棟における多職種連携の悪さが患者に及ぼす影響
内田 道夫
昭和大学附属烏山病院

S-5 [教育の立場から]
～教育（学生相談）の実践から～
鈴木 佳子
東京経済大学

座長：端詰 勝敬（東邦大学 医学部 心身医学講座）

わが国における産業保健の現状と課題
～多職種連携を含めて～

黒木 宣夫（勝田台メディカルクリニック／東邦大学）

一般演題プログラム

6月12日(土)

【オンデマンド配信】 6月12日～6月30日まで自由閲覧可能

一般演題1 [うつ、リワークと交流分析]

1-1 うつ病の再発予防のために交流分析的アプローチを用いて治療した一例

○平出 麻衣子、吉内 一浩
東京大学医学部附属病院 心療内科

1-2 派遣労働者のメンタルヘルスにおける TA 理論の活用

○高橋 美千代
株式会社 富士巧芸社

1-3 当院リワークデイケアにおける TA の有効性 ～多職種連携の視点から

○松本 敦
医療法人社団 心癒会 しのだの森ホスピタル

1-4 抑うつを伴う休職者におけるエゴグラムと社会適応能力との関連

○柊 未聖、橋本 和明、端詰 勝敬
東邦大学医療センター大森病院 心療内科

一般演題2 [心理における交流分析の活用]

2-1 怒りの問題をラケット感情から考える

○米沢 宏¹⁾²⁾
1)ジャパン EAP システムズ、2)慈友クリニック

2-2 茶摘み体験による癒し効果の交流分析的検討 ～ POMS と TEG の相関関係から～

○小俣 良介
埼玉県茶業研究所

2-3 健康な心をもったメンバーで構成された集団の集団文化をエゴグラムでみた特性

○後藤 文彦
京都産業大学 名誉教授

一般演題3 [臨床と交流分析1]

3-1 ストレス対処行動からみた persistent postural-perceptual dizziness の考察

○橋本 和明、嶋 美香、端詰 勝敬

東邦大学 医学部 心身医学講座

3-2 機能性めまいのエゴグラムと重症度における比較

○橋本 和明、柊 未聖、端詰 勝敬

東邦大学 医学部 心身医学講座

3-3 慢性疲労症候群患者のエゴグラムと精神症状との関連

○野口 敬蔵¹⁾、吉原 一文¹⁾²⁾、富岡 光直¹⁾²⁾、須藤 信行¹⁾²⁾

1)九州大学病院 心療内科、2)九州大学大学院医学研究院 心身医学

一般演題4 [臨床と交流分析2]

4-1 化学物質過敏症を併存する事例のエゴグラムによる検討

○橋本 和明、端詰 勝敬

東邦大学 医学部 心身医学講座

4-2 気管支喘息患者および身体的不定愁訴をもつ患者における TEG-II の比較検討と治療の奏功との関係について

○齋藤 紀先¹⁾、里村 峻²⁾

1)弘前大学大学院医学研究科 臨床検査医学講座、

2)社会福祉法人やまぶき福祉会 放課後等デイサービス太陽

4-3 TEG を利用した神経性やせ症患者家族の相談

○中村 祐三、小山 明子、嶋 美香、端詰 勝敬

東邦大学医療センター大森病院 心療内科

講習会プログラム

6月13日(日)

【オンデマンド配信】 6月12日～6月30日まで自由閲覧可能

講習会

【ベーシック講習会】

ここから始まる交流分析 ～やり取りで紡ぐ人生の物語～

(初めての方にも、交流分析の全体像を振り返りたい方にも、教え方のヒントを得たい方にも)

講師：花岡 啓子(吉祥寺通り花岡クリニック)
細谷 紀江(学習院大学学生センター 学生相談室)

【アドバンスト講習会】

ポジティブな交流分析に向けて ～バーンの脚本分析からコ・クリエイティブ交流分析まで～

講師：江花 昭一(神奈川大学保健管理センター)

抄 録

特 別 講 演

会 長 講 演

教 育 講 演

シンポジウム

ランチョンセミナー

わが国における産業保健の現状と課題 ～多職種連携を含めて～

黒木 宣夫

勝田台メディカルクリニック
東邦大学

2020年から世界中に新型コロナウイルスの感染が広がり、第1度目の緊急事態宣言が同年4月5日～同年5月31日までの期間、2度目の緊急事態宣言が2021年1月7日～同年3月21日まで発出、そして2021年3月にはいり、変異ウイルスの感染拡大が報告され、大阪を中心に「第4波」が到来、同年4月25日から3度目の緊急事態宣言が発出されている。新型コロナウイルス感染症が、我々の社会～日常生活に影響を与え、産業精神保健の現場でも在宅勤務が推奨、企業によっては出勤率を50%に抑制、勤務や働き方、復職等に大きな影響を与えた。当然、産業保健での多職種連携の在り方が大きな課題となっている。

このような新型コロナウイルス変異株の爆発的な感染拡大のなかでも行政施策は着実に実施されている。働き方改革関連法が2018年6月27日国会で成立し、医師等を除いて2019年4月から実施、同法の要点は1) 時間外労働の上限規制、2) 年5日の年次有給休暇の確実な取得、3) 同一労働同一賃金、4) 産業医、産業保健機能強化、5) 高度プロフェッショナル制度の創設、6) 勤務間インターバル制の努力義務化等であり、特に長時間労働は正と格差是正が同法の最重要課題であり、この法律成立の背景には、少子高齢化による人口構造の変化等の経済社会情勢、特に将来、労働人口の大幅に減少に対応して成立したと言っても過言ではない。次に労働施策総合推進法は2018年6月29日に成立したが、同法は2019年5月29日に改正案が成立した。同法は従来の「雇用対策法」の名称が変更となった法律で、特に今回重点を置かれているのがセクシャルハラスメント・パワーハラスメント防止であり、企業にその防止策を義務づけている。義務化の時期は早ければ大企業が2020年4月、中小企業が2022年4月の見通しである。

産業精神保健の現場では、労働者が傷病に罹患し医療機関を受診し、治療する過程において、治療を担当する主治医と、労働者の健康と安全の観点から職場での対応を担当する産業医との間で、労働者の同意のもとに適切な情報交換・連携が図られることが、治療面からも就業面からも有意義であることが指摘されている。しかし、企業規模により連携する職種や関係者も異なるが、近年、産業医、保健師、心理士、精神科医、人事、上司が連携してメンタルヘルスケアに当たることも多く、事例をとうして治療連携に関して若干の考察を加えて報告する。また、わが国における労災認定の現状と課題、特に労災認定後の長期療養に関しても報告する。

抄 録

一 般 演 題

1-1

うつ病の再発予防のために
交流分析的アプローチを用いて治療した一例

○平出 麻衣子、吉内 一浩
東京大学医学部附属病院 心療内科

症例は50代後半の女性で、初診時食欲不振と体重減少を主訴に来院した。

X-1年11月：長女の結婚や、親友が病気で亡くなったことをきっかけに、心窩部痛や食欲不振を認め、徐々に抑うつ症状も出現した。近医で諸検査を行ったが特に異常なく、X年10月に当院当科初診となった。機能性ディスペプシア(心身症)、うつ病の診断で薬物治療開始となったが、人間関係の困難さに対する訴えが聞かれたため、うつ病の症状が落ち着いた段階で交流分析への導入が検討され、本人も希望された。

X+1年11月：睡眠障害以外の症状が軽快したため、心理的な問題に関して交流分析的アプローチを施行する方針となった。

現在の人間関係の困難さに関してアセスメントを進めていくと、ストレスの強い場面では無意識に、人生脚本に従って行動しており、母親との関係を再演していることが明らかとなった。幼少期の母親との関係を詳細に振り返ると、「母のために自分を抑えてきた」ということが共有され、根底には母に対しての愛情や甘えたい気持ちがありながらも、「子供であるな」の禁止令や「完璧であれ」「強くあれ」「他人を喜ばせよ」のドライバーにより、本来の自然な感情を抑圧してきたことが伺えた。さらに、「自身の欲求や自然な感情を抑えて、相手(母)を喜ばせている限り存在価値があるが、誰も自分の努力や苦しみを理解してくれず、結果として相手(母)を満足させることもできない」という人生脚本があり、相手を満足させられない自分への自責につながり、その結果相手に見捨てられるかもしれないという悲しみや不安が高まると、ラケット感情である怒りが出現しており、これらが抑うつ症状や身体症状にも関連してきたことが考察された。

脚本からの解放を図るよう援助し、理論上で交流分析的に理解を深めた上で、最終的にはネガティブな感情が生じた際に、脚本を演じているのではないかという内省を行うことができるようになり、実生活でも、母親とも適切な距離を取って、関係が良好となったため、X+3年12月に交流分析的アプローチを終結した。交流分析終結時には、ほぼ睡眠障害も軽快しており、X+4年3月に薬物療法も終結することができた。

大会委員名簿

大 会 長 端詰 勝敬

事 務 局 長 中村 祐三

実 行 委 員 竹内 武昭 橋本 和明

アドバイザー 島田 涼子

日本交流分析学会 第46回学術大会 プログラム・抄録集

大会長：端詰 勝敬

発行日：2021年6月4日

事務局：東邦大学医学部心身医学講座 内
〒143-8541 東京都大田区大森西6-11-1
TEL：03-3762-4151
E-mail：46jsta@ml.toho-u.jp

出 版：株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025
<https://secand.jp/>

日本交流分析学会
第46回学術大会事務局

〒143-8541

東京都大田区大森西6-11-1
東邦大学医学部心身医学講座 内
TEL.03-3762-4151
E-mail: 46jsta@ml.toho-u.jp